

私の兄

中部中・1 磯部 真衣

私の兄は四歳までひと言も言葉を話しませんでした。

私には三歳年上の兄がいます。診断名は自閉症です。兄が四歳になるころにはしゃべったようですが、それでも小さいころの私は一人しかいない兄を普通の兄だと思っていました。

電車のおもちゃが大好きで、いつも一人でここに遊んでいました。踏切も大好きで、一度見つけるとしばらくそこを離れようとしませんでした。テレビに録画した電車の番組の同じところを、何度も何度も見ていました。

それでも私がいっしょに遊ぼうと言うと、快く遊んでくれました。しゃべることも、怒ることもなく楽しかったけれど、ふとした時にパニックになり、一度泣くとなかなか泣きやみませんでした。一日に何回もありました。

二人で大きくなるにつれ、だんだん他のお兄ちゃんと違ってきました。保育園も私と違うところに行きました。

兄と同年の子たちが保育園に通い、運動会などの行事をしていたとき、兄は保育園に通っておらず見ているだけだったそうです。そのときはデイサービスに通って保育園へ通う練習をされており、保育園へ行って下見をよくしていました。

私は兄より先に保育園に通っていて運動会もしていました。私の保育園では親子競技があり私は母と一緒に出ました。兄は一人になつてしまうので一緒に運動会を見に来たひいおじいちゃんと私の競技が終わるのを待っていました。親子競技のときだけでなく私の運動会が終わるのを一日中待っていました。なにもせず、じっと待つことの苦手な兄はひいおじいちゃんと保育園の近くを散歩したり、

遠くの自動販売機にお茶を買いに行ったりして時間をつぶしていたそうです。

小学校は同じでしたが、兄は人数の少ないクラスにいました。朝学校に行くとき、いつも私の父か母が兄の横について、途中まで通いました。

私の横では一緒に歩いてくれなかったので私はいつも他の子とお話ししながら通いました。

学校で兄と会うことはありませんでしたが、クラスメイトにはあまり知られたくなかったので自分から手を振ったりはしませんでした。兄の横にはいつも先生がいて兄は特別扱いされているんだなと思っていました。

家に帰っても、いつも父と母も兄しか見てないと思っていました。私がいるのに、父と母は兄の話ばかりしていました。

私にも行きたいところがあるのに、兄の病院に何度も付き合わされました。病院も何ヶ所か回ることもあり、兄の靴を作りに行くこともありました。靴の病院は待ち時間がすごく長くて、私はずっと退屈でした。

時には電車に乗って遠くの病院に行くこともありましたが、電車好きの兄はじつとせず、窓の景色をにこにこながめていたり、何度も運転席のそばに行き、真剣に見たりしていました。

普通の兄ならこんなあちこちには行かず、家で二人でずっと遊べるのになと思っていました。

兄が通っていたデイサービスで「兄弟の会」というのがありました。私と同じような兄弟を持つ子が集まって、キャンプや川で遊んだり、兄弟がいていってもできないような特別なことをしたりしました。

みんなそれぞれ、兄弟のいいところなど話し合っただけで普段言えない悩みを打ち明けて気が楽になった思い出があります。

初めのころはなんでこの会に参加するのか、なんでこの会があっ

て何の目的があるのかわからなかったですが、今となつては参加できて良かったです。

兄にはデイサービスで知り合った仲のいい友達があります。兄はその子と三歳離れています。兄より三歳年下だけれど年の差を感じないくらい仲良しです。その子とは手紙でやりとりをしていて、お互いの家で遊んでいたけれど今はあまり遊べていないそうです。手紙の内容は、お互いの学校やクラスの話だったりお互いが好きな電車の話だったり、その電車に乗ったことだったりたくさんやりとりをしています。手紙の切手を電車の絵柄にして、お互いを思っていてとても仲良しです。

兄も中学生になり、一緒に学校に通わなくなりましたが、私の運動会には来ました。やつと離れたのに、来なくてもいいよと言ったのに、兄は喜んでくれました。そんな私の気持ちを何も考えずに、先生たちと楽しそうに話す兄の姿を見て、兄は先生たちから人気者だったんだなと思いました。

私が小学校六年生のとき、兄と二人で名古屋に行きました。どうしても欲しいものが、名古屋にしかなく、父と母は仕事なので兄しか頼める人がいませんでした。

二人だけでとても不安でしたが、電車好きの兄は私の心配とは関係なく、すいすいと電車の乗り換えをしてくれました。買い物後は、二人でハンバーガーを食べたり、兄の希望でミットランドスクエアに上ったりしました。

帰りの電車で私は寝てしまいましたが、降りる駅の手前で兄がちゃんと起こしてくれました。

行くのがすごく不安だったけれど、行きたかったところに連れていってくれて、一日すごく楽しかったし、兄は意外と頼れるなと思いました。

兄の中学卒業が近づくにつれ兄に高校受験が訪れました。兄の選んだ高校は一学年に十七人というとても難しい高校でした。勉強を

するというよりは、将来、就職して働くための準備をする高校だそうですね。家族の願いが通じ、兄は見事合格しました。それは大好きな電車に毎日乗って通える高校です。

ハンデがありながらも、私の前ではいつも明るく私を笑顔にしてくれる兄が大好きです。私よりもだいたい背が高く重たい荷物を持つてくれる兄を頼りにしています。

兄弟は選べないというけれど私にはこの人で本当に良かったと思います。

今日も元気に部活へ行った兄、今ごろ、楽しく電車に乗っているかな。